

# 株式会社キンレイ

筑波工場 / 茨城県阿見町

当社は1974年創業の冷凍麺製造企業です。スープ・麺・具材の三層構造は1975年に実用新案登録され関西のコンビニエンスストアから鍋焼うどんを販売。現在ではほとんどのコンビニエンスストアの冷凍食品売り場で、販売されるようになりました。「真心の手仕事で、街の専門店を越える専門店になる」を合言葉に日々、味の改良を重ね、皆様に末永く愛される商品作りを目指しています。



外観

## 補助事業の概要

- 導入設備: 停電対応型CGS 700kW×1台
- 共同申請者: 東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社
- 導入方式: エネルギーサービス方式
- 補助金額: 87,175千円(補助率1/2)
- 災害時の設備用途: [発電] 冷凍食品を冷凍して避難者へ提供、避難所の照明・コンセント・換気設備向け  
[温水] ボイラ給水加温、プロセス用温水タンク利用  
[蒸気] 生産プロセスへの供給

対象施設	避難所面積	供給方式
物資提供	133㎡	中圧

## 事業者様の声

## 補助金を用いた設備導入の経緯と効果

株式会社キンレイ 筑波工場 計画グループ 齋藤 裕亮 様

災害に強く安価であった都市ガスに移行する事でランニングコストが削減され、停電時に稼働出来るようになるのは大きなメリットだったのでCGS設置をする事になりました。さらに補助金でコストを低減できるのであれば翌年の補助金のスケジュールに合うよう前年度より準備する事になりました。

2011年の東日本大震災で被災した事や昨今の自然災害の頻発を目の当たりにし、当施設でも災害時に地域に貢献出来ればと考えておりました。今回、補助金を活用し、停電時に電気が使用出来る施設になる事で避難所としてお役に立てると思い、行政に協定を提案しました。

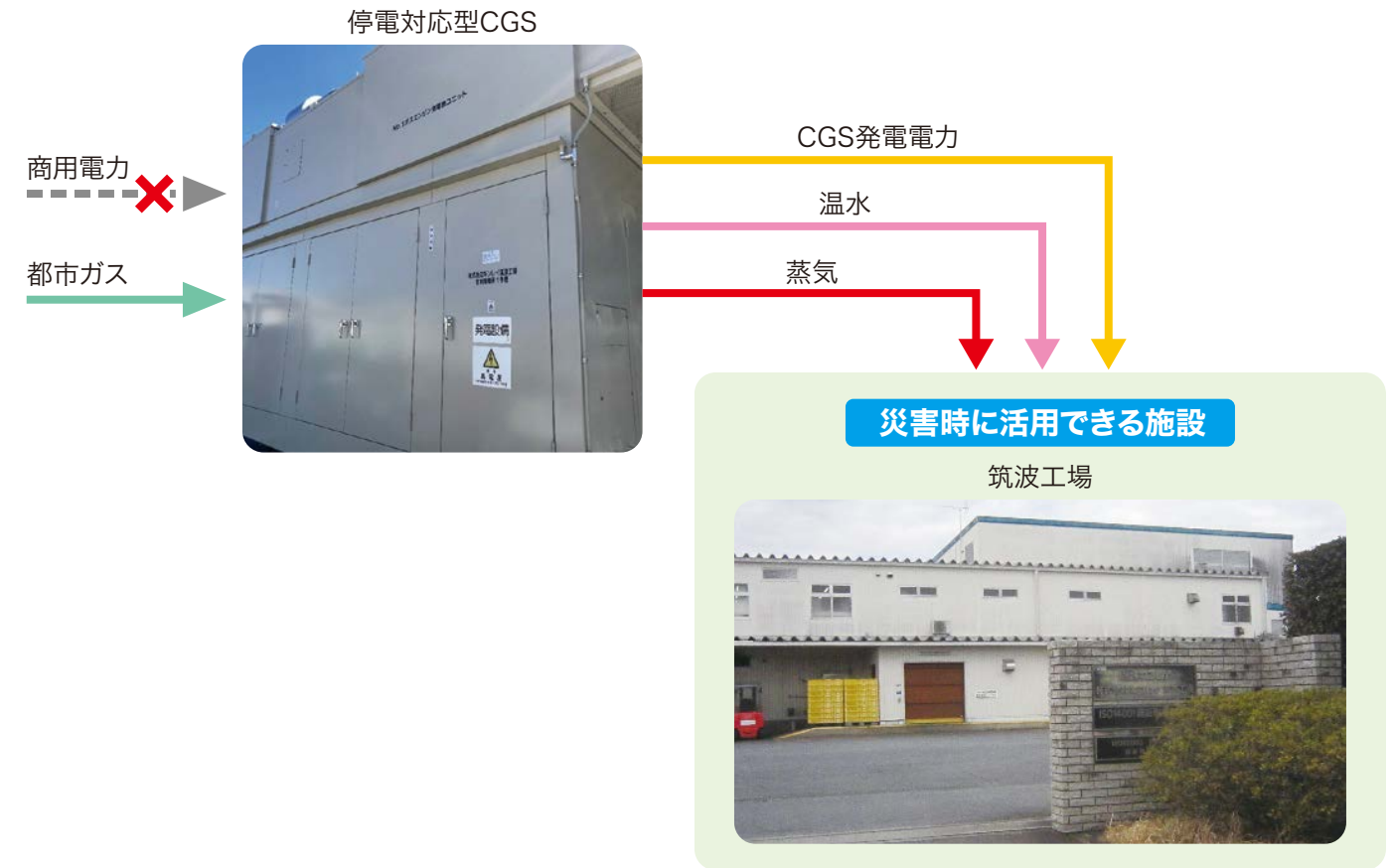
従来から災害時に飲料水を提供出来る避難所として協定は締結していましたが、停電時の避難所としての役割に不安を感じていました。また、災害により食糧難となった場合、冷凍庫内の自社製品(冷凍食品)を守る事で、水だけでなく食料も提供できる避難所としてさらなる地域貢献が出来ると考えました。

今回の補助金で、停電時に稼働できる設備の導入コストが抑えられるので、チャンスと考えました。

東日本大震災の際、都市ガスの供給が数日止まったと聞いていた為、災害に弱いイメージがありました。その後、災害に強いという話をいくつか聞いているうちに、信頼してもいいのではと考えが変わりました。

## 災害時にも貢献する施設の役割とエネルギーシステム

### 停電時の設備活用イメージ



## 災害時にも避難所等で活用可能な設備等



## 協定概要

阿見町とは「災害時における物資の調達供給及び施設利用等の協力に関する協定書」を締結(令和3年8月)。地震、風水害、その他の災害が発生し、又は発生するおそれがある場合には、施設等を使用すること(被災者等を一時収容するための施設の提供、調達可能な物資の提供)を定めております。